

【 投 薬 】

４９２ ニューモシスチス肺炎の発症抑制に対するスルファメトキサゾール・トリメトプリム【内服薬】の算定について

《令和７年３月３１日》

○ 取扱い

次の場合のニューモシスチス肺炎の発症抑制に対するスルファメトキサゾール・トリメトプリム【内服薬】（バクタ配合錠等）の算定は、原則として認められる。

- (1) 免疫抑制剤又は生物学的製剤を投与している場合
- (2) 癌化学療法を実施している場合

○ 取扱いを作成した根拠等

バクタ配合錠は、添付文書の効能・効果の一つに「ニューモシスチス肺炎、ニューモシスチス肺炎の発症抑制」がある。免疫抑制剤又は生物学的製剤を投与している場合や癌化学療法を実施している場合は、細菌、ウイルスをはじめとし、ニューモシスチスを含めた真菌などの感染症が発現又は増悪する可能性があることから、当該医薬品の投与は有用である。

以上のことから、上記の場合のニューモシスチス肺炎の発症抑制に対する当該医薬品の算定は、原則として認められると判断した。